

## 民法 1 の成績評価方法／レポートの執筆方法

成績は以下の割合に従って評価します（最初に説明した評価方法の通りです）。  
また、レポートの書き方については、**注意事項をよく読み作成してください。**

成績評価方法	小テスト	100 点	50%
	択一のテスト	30 点	50%
	レポート	70 点	

### ■小テストについて（合計 100 点）

	得点（満点）	範囲	実施の有無・時期
第 1 回小テスト	20 点	実施の際に指定	実施済み
第 2 回小テスト	20 点		
第 3 回小テスト	20 点		
第 4 回小テスト	20 点		
第 5 回小テスト	20 点	物権変動・不動産 物権変動（授業の 第 19 回～第 22 回）	12 月 1 日～12 月 8 日

### ■択一テストについて

択一のテスト	30 点	全範囲（民法総則・ 物権法）	2022 年 1 月 12 日 14 時 30 分～21 日 16 時 30 分 ※再受験希望受付：開始～1 月 21 日 12 時まで
--------	------	-------------------	---

- ・択一のテストは民法 1 の全範囲（民法総則・物権法）から出題します。
- ・実施方法はこれまでの小テストと同様、webclass によります。
- ・実施時間は、（これまでの 45 分とは異なり）60 分です。
- ・2022 年 1 月 12 日 14 時 30 分から 21 日 16 時 30 分の間に必ず実施してください。

・通信トラブル等により、正常に択一のテストの回答を送信できなかった場合、件名に【民法 I 択一のテストについて】と示した上で、本文に、学籍番号・氏名・詳細内容を記載し、法務研究科補助室(laws-ra@gakushuin.ac.jp)に連絡して下さい。なお、通信トラブルによる再受験の希望があった場合、返答までに時間を要する可能性があります（補助室開室時間：平日 10 時～16 時 30 分）。再受験は試験実施期間内でのみ認めます。そのことを考慮したうえで、余裕をもって受験・連絡をして下さい。

## ■レポート

レポート	満点： 70 点	テーマについては下記の中から 1 つ選ぶ *必要と判断した受講生には、口述試験をします。	締め切り： 2022 年 2 月 1 日（火）
------	-------------	---	----------------------------

### 【注意事項】

- ・締め切りは、2022年2月1日（火）です。
- ・提出先は webclass です。
- ・テーマを下記から 1つ 選択してください。（2つ以上選択した場合、無効とします）
- ・字数は、3000 字以内です。字数は、本文の文字数です。タイトル、名前、脚注、参考文献を含みません。
- ・1 ページ目に、選択したテーマ、（選択したテーマとは別にタイトルを付ける場合には）タイトル、名前、学籍番号を必ず書いてください。
- ・書籍（教科書、体系書等）、論文（雑誌記事、大学の紀要論文等）を参考に執筆してください。Wikipedia やインターネットのブログは参考文献として不適切です。引用する場合は、きちんと脚注を付して引用元を明らかにしてください。引用を示さないコピーや教科書その他論文の写しは認められません。
- ・参考とした文献は、「参考文献」として最後に載せてください。
- ・必ず各自で作成すること。レポートを見て必要と判断した場合（類似のレポートがある場合や、コピーと思われるような場合）、個別に口述試験を実施することがあります。口述試験が必要と判断した受講生については、口述試験を受験しなければレポートの点数はつきません。口述試験はレポートの内容に関するものです。
- ・教科書を単にまとめたものは、レポートとは言えません。単に教科書をまとめたものには点が付きません。  
レポートに取り組む上では、複数の文献に当たることが必須です。その上で、文献を比較しながら、それぞれの論者が何を主張したいのか考え、そこを引用します。引用や出典は決まった方法があります。  
また、レポートを書く際には、テーマに基づいて何が問題か、①まず問題提起をし、②調べた見解がそれぞれその問題提起についてどのような論理構成（根拠）に基づいて回答を出

しているか論じ（見解の分析をする）、③最後に結論として自分の見解を述べる必要があります。

レポートの作成方法がわからない場合は、レポートの書き方を調べてから執筆しましょう。レポート作成にあたり役立つ参考文献は下記に掲載しています。

・レポートは、必ず、時間に余裕を持って試験を実施してください。通信トラブルによる提出の遅れについては、救済措置をとりません。

【テーマ】

1. 次の(1)から(5)から1つテーマを選んでください。

\*\*\*\*\*

- (1) 意思能力を欠いた行為の効力と消費者保護規制の関係
- (2) 動物は「物」(85条)なのか
- (3) 消滅時効における主観的起算点の意義
- (4) 所有権放棄は認められるか
- (5) 所有者不明土地の解消に向けた民事基本法制の見直し（民法・不動産登記法等一部改正法・相続土地国庫帰属法）に関連する新聞記事を見つけた上で、このような改正が必要になった背景を論じ、以下①～④のうち一つを選んで、論じること。  
①相続登記の義務化、②相続土地国庫帰属制度、③土地・建物について新しく設けられた管理制度、④共有制度の改正

\*\*\*\*\*

2. 【加點事由（15点）】以下の雑誌の中から、上記で選択したテーマに関連する論文（記事）を一つ選んでください。

初學者向 けの雑誌	法学教室	① 左の雑誌の中から、10年以内に出版された記事（3頁以上のものに限る）を選ぶこと。
	法学セミナー	
法律総合 雑誌	ジュリスト	② レポートの中に、選んだ記事を引用し、その記事の要約（800字以内）を含めること。レポートの中に組み込むこと。レポートと別に要約を求めているわけではありません。
	論究ジュリスト	
	法律時報	
私法を中 心とした 雑誌	民商法雑誌	*論文の出典方法に従って、引用すること（引用方法については、別のファイル「文献探索ツアー」を参照のこと）。
	月刊登記情報	
	銀行法務 21	
	エヌ・ビー・エル（NBL）	
		③ レポートの最後に、参考文献として、要約した論文を示すこと。 その際、論文の出典の後に、「(要約)」と書くこと。 以上の要件を満たしていた場合に、「レポートの点に15点を加點」します。（レポートは70点満点ですので、加點しても、最大で70点です。）

\*以下の雑誌については、学外からオンラインでもアクセスできます（図書館のホームページにある「オンライン・データベース」からアクセスしてください。）

- ・法学教室（TKC ローライブラリー：有斐閣コンテンツ）
- ・ジュリスト（TKC ローライブラリー：有斐閣コンテンツ）
- ・論究ジュリスト（TKC ローライブラリー：有斐閣コンテンツ）
- ・法律時報（LEX/DB 法律雑誌データベース：法律時報）
- ・民商法雑誌（TKC ローライブラリー：有斐閣コンテンツ）

以上の雑誌以外で一覧に示した雑誌は、オンラインで閲覧することはできません。図書館で閲覧してください。

なお、選択する論文は、直接、テーマに答えを提供するものでなくともかまいません。例えば、テーマのうち(2)を選択した場合、85 条の「物」の要件について論じた論文を引用した上で、その「物」の要件が「動物」に当てはまるのか論ずるということも可能です。

**レポートの書き方がわからない場合は、下記の書籍が役に立ちます。**

・田高寛貴、秋山靖浩、原田昌和『リーガル・リサーチ&リポート（第2版）』（2019年、有斐閣）（こちらの書籍の抜粋を webclass に掲載します）

・弥永真生著『法律学習マニュアル（第4版）』（2016年、有斐閣）

\*法文書の作成については、上記以外にも本は出版されていますし、インターネットを検索して書き方を学ぶこともできるでしょう。

以上